

い い 活 活 農 業

令和元年度

厚沢部町農業活性化センター

圃場試験成績、土壌診断資料



令和2年3月

厚沢部町農業活性化センター

目 次

I. 令和元年気象経過	1
-----------------------	---

II. 栽培等試験成績

1. もち性大麦栽培試験	3
2. 緑肥・展示・調査	7
3. 伏せ込み用アスパラガス苗栽培試験	11
4. 生分解性マルチ比較試験	15
5. にんにく栽培試験1	21
6. にんにく栽培試験2	25
7. 堆肥施用効果確認試験	29

檜山農業改良普及センター試験成績（厚沢部町関連）

8. 春まき小麦「春よ恋」栽培法試験	33
9. 秋まき小麦「きたほなみ」栽培実態調査	36

III. 土壌分析診断事業

1. 令和元年度土壌診断事業実績	43
2. 土壌採取の手順	44
3. 作物の各成分の適正範囲	45

I. 令和元年気象経過

鵜アメダスデータ(檜山郡厚沢部町鵜町)

月	日	～	日	令和元年(2019年)					平年差					平年				
				平均 気温	最高 気温	最低 気温	降水量 日計	日照 時間	平均 気温	最高 気温	最低 気温	降水量 日計	日照 時間	平均 気温	最高 気温	最低 気温	降水量 日計	日照 時間
4	1	～	5	1.2	6.6	-3.6	22.5	21.2	-2.4	-2.0	-2.1	12.0	-3.8	3.6	8.6	-1.5	10.5	25.0
4	6	～	10	3.2	9.0	-2.5	3.5	41.5	-1.6	-1.0	-1.9	-8.1	14.9	4.8	10.0	-0.6	11.6	26.6
4	11	～	15	5.5	12.9	-1.2	3.5	41.1	-0.1	1.9	-1.3	-9.8	13.6	5.6	11.0	0.1	13.3	27.5
4	16	～	20	8.3	14.1	0.8	6.5	49.9	1.9	2.2	-0.0	-8.2	21.7	6.4	11.9	0.8	14.7	28.2
4	21	～	25	8.7	15.6	-0.5	12.0	43.3	1.3	2.7	-2.3	-3.2	14.5	7.4	12.9	1.8	15.2	28.8
4	26	～	30	6.2	11.5	0.1	5.0	24.5	-2.2	-2.5	-2.6	-11.5	-5.0	8.4	14.0	2.7	16.5	29.5
5	1	～	5	9.2	14.5	3.6	20.0	36.0	-0.1	-0.3	-0.1	1.3	6.2	9.3	14.8	3.7	18.7	29.8
5	6	～	10	9.9	15.7	4.2	0.0	23.9	-0.0	0.3	-0.2	-18.0	-4.5	9.9	15.4	4.4	18.0	28.4
5	11	～	15	10.9	18.8	2.1	0.0	54.7	0.3	2.8	-3.1	-15.5	28.2	10.6	16.0	5.2	15.5	26.5
5	16	～	20	16.2	25.4	6.5	0.0	60.6	4.8	8.7	0.2	-14.3	35.1	11.4	16.7	6.3	14.3	25.5
5	21	～	25	14.9	21.3	8.0	19.0	46.4	2.7	3.8	0.9	4.6	19.9	12.2	17.5	7.1	14.4	26.5
5	26	～	31	16.0	22.0	9.5	11.0	47.3	3.1	3.6	1.7	-4.9	12.6	13.0	18.4	7.8	15.9	34.7
6	1	～	5	15.5	21.2	8.7	3.5	30.2	1.7	1.8	0.0	-8.2	1.2	13.8	19.4	8.7	11.7	29.0
6	6	～	10	15.9	22.0	10.1	0.0	37.6	1.3	1.9	0.5	-11.5	10.1	14.6	20.1	9.6	11.5	27.5
6	11	～	15	15.6	22.4	8.3	0.5	41.3	0.3	1.8	-2.1	-11.0	15.8	15.3	20.6	10.4	11.5	25.5
6	16	～	20	14.9	20.4	8.1	10.5	21.2	-1.1	-0.7	-3.3	-1.0	-2.2	16.0	21.1	11.4	11.5	23.4
6	21	～	25	17.4	21.7	13.1	24.0	23.4	0.8	0.1	0.8	11.6	0.7	16.6	21.6	12.3	12.4	22.7
6	26	～	30	17.4	20.9	14.5	4.0	11.0	0.2	-1.3	1.6	-10.3	-11.8	17.2	22.2	12.9	14.3	22.8
7	1	～	5	17.4	21.2	14.5	16.0	9.7	-0.4	-1.5	0.8	-2.7	-11.3	17.8	22.7	13.7	18.7	21.0
7	6	～	10	17.9	23.4	12.1	0.0	39.9	-0.5	0.4	-2.5	-24.4	21.4	18.4	23.0	14.6	24.4	18.5
7	11	～	15	18.6	22.6	15.6	15.0	15.2	-0.4	-0.8	0.1	-11.0	-2.2	19.0	23.4	15.5	26.0	17.4
7	16	～	20	20.5	24.8	17.0	1.0	13.6	0.8	0.8	0.8	-22.1	-5.0	19.7	24.0	16.2	23.1	18.6
7	21	～	25	21.2	25.6	18.2	8.0	13.4	0.8	0.7	1.4	-14.0	-6.0	20.4	24.9	16.8	22.0	19.4
7	26	～	31	23.9	26.8	21.8	30.5	6.6	2.8	1.1	4.4	1.4	-16.5	21.2	25.7	17.5	29.1	23.1
8	1	～	5	23.9	29.1	20.3	0.0	30.4	2.3	2.9	2.5	-27.2	10.0	21.6	26.2	17.8	27.2	20.4
8	6	～	10	22.2	27.9	18.0	92.5	28.1	0.5	1.5	0.1	63.7	6.6	21.7	26.4	17.9	28.8	21.5
8	11	～	15	21.3	24.9	18.6	0.0	15.0	-0.3	-1.5	1.0	-27.8	-7.2	21.6	26.4	17.6	27.8	22.2
8	16	～	20	22.4	26.2	19.1	58.0	18.0	1.1	-0.0	2.0	29.3	-4.7	21.3	26.2	17.1	28.7	22.7
8	21	～	25	19.6	22.9	16.5	63.5	20.2	-1.3	-3.0	0.0	31.9	-3.4	20.9	25.9	16.5	31.6	23.6
8	26	～	31	19.9	25.2	14.5	5.0	33.7	-0.4	-0.1	-1.3	-32.7	4.5	20.3	25.3	15.8	37.7	29.2
9	1	～	5	19.2	25.6	11.6	3.5	34.7	-0.2	1.0	-3.2	-26.8	10.2	19.4	24.6	14.8	30.3	24.5
9	6	～	10	23.4	29.7	17.9	0.5	29.3	5.0	5.9	4.4	-27.8	4.8	18.4	23.8	13.5	28.3	24.5
9	11	～	15	16.5	22.9	10.3	7.0	24.1	-0.8	-0.2	-1.8	-17.9	-0.9	17.3	23.1	12.1	24.9	25.0
9	16	～	20	16.8	22.3	10.9	13.0	29.6	0.5	0.1	0.1	-11.2	4.6	16.3	22.2	10.8	24.2	25.0
9	21	～	25	13.9	19.8	7.3	65.5	27.3	-1.3	-1.4	-2.2	40.5	2.2	15.2	21.2	9.5	25.0	25.1
9	26	～	30	15.6	21.5	8.8	12.0	23.5	1.4	1.4	0.4	-12.4	-1.1	14.2	20.1	8.4	24.4	24.6
10	1	～	5	16.8	22.2	11.7	42.5	21.5	3.7	3.1	4.4	19.4	-2.1	13.1	19.1	7.3	23.1	23.6
10	6	～	10	12.8	17.7	7.1	21.0	20.9	0.7	-0.5	0.9	-0.9	-2.5	12.1	18.2	6.2	21.9	23.4
10	11	～	15	11.2	16.3	4.9	6.5	25.9	0.2	-0.9	-0.2	-14.5	2.4	11.0	17.2	5.1	21.0	23.5
10	16	～	20	9.2	15.4	1.8	4.5	27.5	-0.6	-0.6	-2.2	-16.5	4.7	9.8	16.0	4.0	21.0	22.8
10	21	～	25	11.8	18.2	5.6	6.5	22.5	3.1	3.6	2.5	-13.5	1.8	8.7	14.6	3.1	20.0	20.7
10	26	～	31	10.7	15.3	5.7	16.5	19.0	2.8	1.9	3.3	-5.3	-2.5	7.9	13.4	2.4	21.8	21.5

数値は函館地方気象台データ。平年値は1981～2010年平均、ただし、日照時間は1990～2010年平均。

・春の日最低気温5℃以上5日連続： 5/15～(平年比3日遅)

秋の日最低気温5℃未満3日連続： 10/13～(平年比1日早)

・日最高気温25℃以上(夏日)5日連続： 7/23～(平年比1日早)

・日最高気温30℃以上の真夏日： 8/4(31.1℃), 8/5(30.7℃), 8/6(30.1℃), 8/7(30.3℃), 8/8(31.8℃)
9/7(30.1℃), 9/8(33.8℃)

・日降水量(30mm以上)： 8/10(74.5mm), 8/16(39mm), 8/23(58mm), 9/23(65.5mm), 10/4(42mm)

・日照時間12時間以上の日： 4/13,17,21,22 5/4,11,12,13,14,17,19,20,23,26 6/2,3,12,14

7/9,10 8/4,6,26 9/4

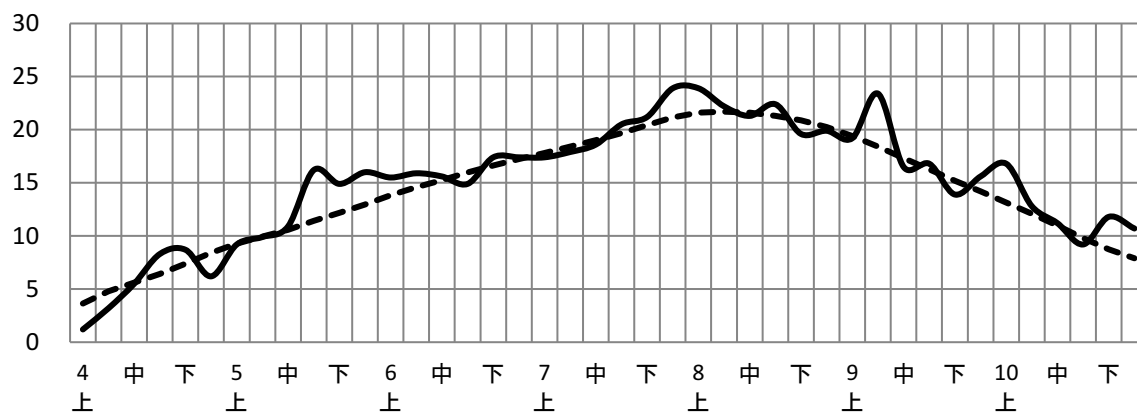
令和元年(2019年)

気象経過図

厚沢部町鶉アメダス

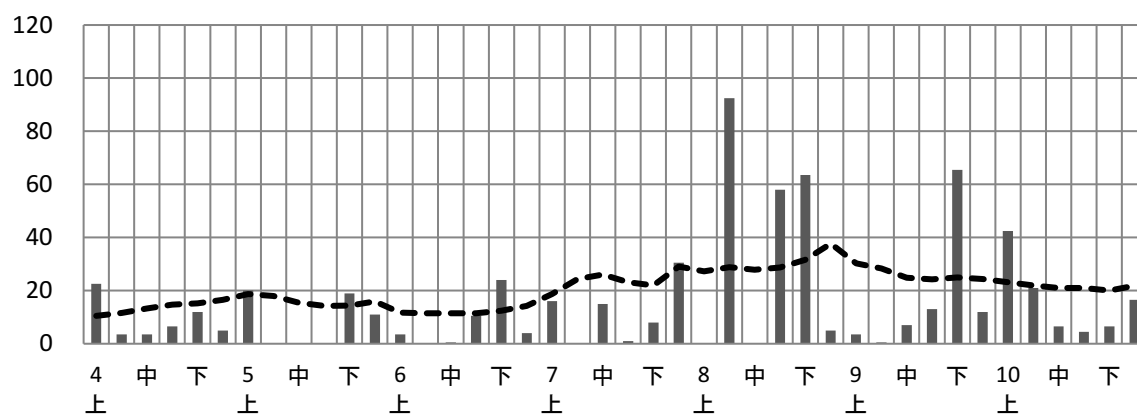
平均気温 °C

—— 令和元年(2019年) --- 平年



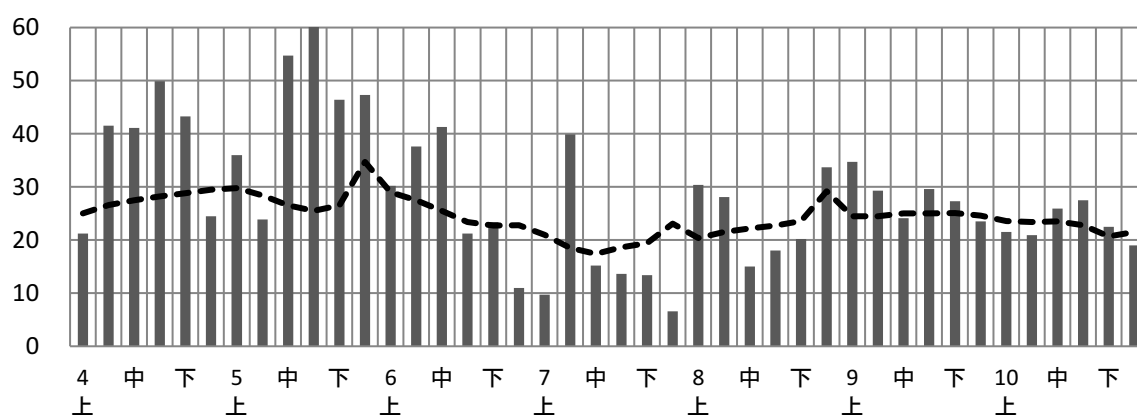
降水量 mm

■ 令和元年(2019年) --- 平年



日照時間 Hr

■ 令和元年(2019年) --- 平年



もち性大麦栽培試験

[令和元年度]

目 的	「キラリモチ」の播種適期および適正な播種量を調査する
試験機関	厚沢部町農業活性化センター
連携機関	
場 所	農業活性化センター試験圃場

1 試験方法

(1) 供試作物

品目	品種名	育成元
大麦	キラリモチ	西日本農業研究機構

※ 供試種子(2018年産)の発芽率: 98%(2019年2月測定)

供試種子(2018年産)の千粒重: 43g

(2) 試験規模

①供試面積: 160 m² ②1区面積: 15 m² ③反復: なし

④施肥月日: 4月12日 ⑤肥料: BB464 80kg/10a

(3) 耕種概要

土性	前作物	条間	防 除		収穫日
			回数	薬剤	
壤土	かぼちゃ	30cm	1	プライア水和剤	8月15日
			2	ベフトップジン	

(4) 土壌分析値

pH (H ₂ O)	可給態 リン酸 mg/100g	交換性塩基			リン酸 吸収係数	CEC
		石灰 mg/100g	苦土 mg/100g	加里 mg/100g		
5.6	14	157	29.5	38	1861	19.2

(5) 試験区分

◆ 播種日	区分	①	②	③
	播種日	4月17日	4月30日	5月10日
	出穂期	6月3日	6月12日	6月20日
	収穫日	7月17日	7月22日	7月26日
	生育日数	91日	83日	77日
◆ 播種量	区分	A	B	C
	10a播種量	8kg	13kg	18kg

No.	区分	は種日 (月/日)	は種量 (kg/10a)	No.	区分	は種日 (月/日)	は種量 (kg/10a)
1	①A	4/17	8	6	②C	4/30	18
2	①B	4/17	13	7	③A	5/10	8
3	①C	4/17	18	8	③B	5/10	13
4	②A	4/30	8	9	③C	5/10	18
5	②B	4/30	13				

2 具体的データ

(1)生育調査-1

調査日:5月30日

調査株数:10株/区

No.	区分	草丈 (cm)	葉数 (枚)	区分	区分	草丈 (cm)	葉数 (枚)
1	①A	45.6	5.0	6	②C	30.7	5.5
2	①B	43.1	5.0	7	③A	17.2	4.5
3	①C	38.9	5.5	8	③B	17.4	4.0
4	②A	32.6	5.5	9	③C	12.4	4.0
5	②B	31.0	3.5				

(2)生育調査-2

調査日:①7月17日 ②7月22日 ③7月26日

調査株数:20株/区

No.	区分	稈長 (cm)	茎数 (本/m)	No.	区分	稈長 (cm)	茎数 (本/m)
1	①A	59.8	296	6	②C	59.4	312
2	①B	58.3	248	7	③A	59.5	315
3	①C	57.0	266	8	③B	58.7	237
4	②A	58.6	333	9	③C	55.8	205
5	②B	59.5	388				

3 結果の概要

- ・ 播種時期は4月中旬を目途に、10a当たり播種量は8～13kg(千粒重43gの場合)を標準量として提案する。

4 もち性オオムギの可能性

厚沢部町での新規作物としては、馬鈴薯との労働競合が少なく、さらに輪作体系が組めるだけの栽培面積を必要とする品目が適している。

◎ もち性オオムギ「キラリモチ」の特徴

食物繊維(β -グルカン)を含有し、健康志向の高い機運に適合する農作物である。

◎ 輪作体系を組むための品目として活用する

イネ科作物としては、秋まき小麦、春まき小麦、スイートコーンがあるが、導入しやすい品目の一つとして定着させたい。

馬鈴薯を中心とした栽培では、輪作に組み込むイネ科作物は重要である。当町のイネ科作物としては、秋まき小麦、春まき小麦、スイートコーンがあるが、導入しやすい品目の一つとして有望である。

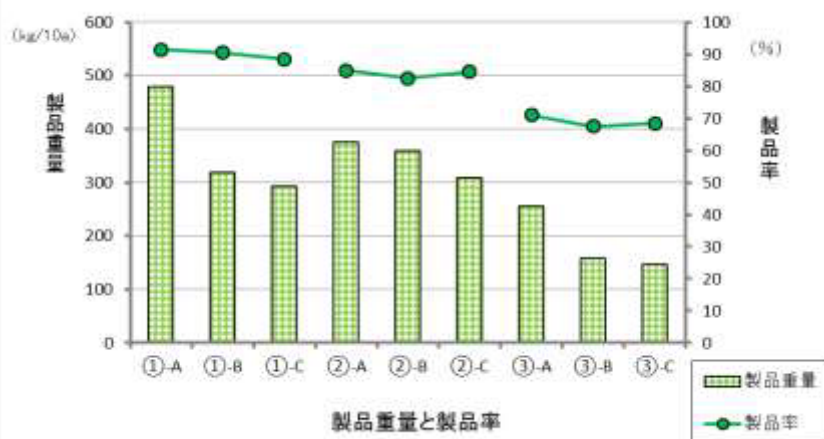
◎ 契約栽培で安定的な収入確保

北海道内におけるもち性オオムギの栽培は既に取り組まれており(滝川市、佐呂間町など)、契約栽培も行われている。

精麦会社との契約栽培においては、乾燥・調製内容や契約価格の検討を進め、安定した収入が得られる品目として導入が望まれる。

(3)収量調査

No.	区分	粗麦重量 kg/10a	製品重量 kg/10a	製品率 %
1	①-A	524.4	479.8	92
2	①-B	352.5	319.0	91
3	①-C	331.0	292.9	89
4	②-A	441.8	375.5	85
5	②-B	437.2	360.7	83
6	②-C	365.5	308.9	85
7	③-A	360.3	255.8	71
8	③-B	235.9	159.2	68
9	③-C	214.9	147.2	69



◆ 播種適期

- ・ は種時期は遅くなるほど収量・品質が低下する傾向であった。
- ・ 4月中の播種が望ましく、播種が遅くなるほど赤かび病や穂発芽の発生率が高まった。

◆ 播種量

- ・ 播種時期は3回に分け、それぞれ10a当たり播種量で8kg、13kg、18kgで比較したが、少ないほど高収量であった。

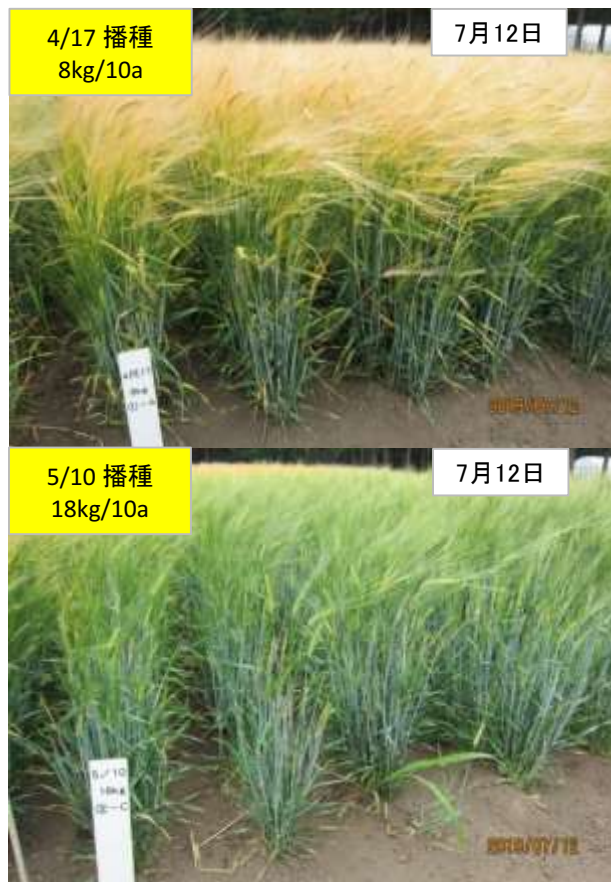
【登録農薬に注意が必要】

大麦と小麦では、登録を有する除草剤、殺虫剤、殺菌剤で異なる薬剤があるので留意する必要がある。

【乾燥・調製】

水分24%で刈り取り可能→1次乾燥で17%まで水分低下→半乾貯留→15%まで仕上げ乾燥

5 関連画像





緑肥展示・調査

[令和元年度]

目 的	緑肥鋤き込み後のかぼちゃ収量性調査
試験機関	厚沢部町農業活性化センター
連携機関	
場 所	農業活性化センター試験圃場

1 試験方法

(1) 供試品目・品種

※1区面積は1a(10m×10m)

No.	緑肥名	品種名	は種量 kg/a	No.	緑肥名	品種名	は種量 kg/a
1	対象区			4	ヘアリーベッチ	まめ助	0.5
2	ヘアリーベッチ	寒太郎	0.5	5	らい麦	R007	1.5
3	ヘアリーベッチ	藤えもん	0.5	6	混播区	まめゆたか	ベッチ 0.5
※ 種苗会社は全て雪印種苗				えんぱく、ヘアリーベッチ			
※ 混播区の品種構成:ヘアリーベッチ「まめ助」、えんぱく「とちゆたか」				エンパク 0.3			

(2) 耕種概要

土性	前作物	緑肥 播種日	緑肥 刈取日	緑肥 鋤込日	施肥 マルチ	肥料	施肥量 kg/10a
埴壤土	緑肥	2018年 7月24日	2018年 10月22日	2019年 4月17日	2019年 6月4日	S879E S444	80 30

(3) かぼちゃ栽培概要

品種	種苗元	播種日	定植日	収穫日	うどんこ病防除
くりりん	武蔵野種苗	5月15日	6月4日	9月9日	① 8/7:ダコニールエース ② 8/22:ストロベリーFL ③ 8/29:アフェットFL

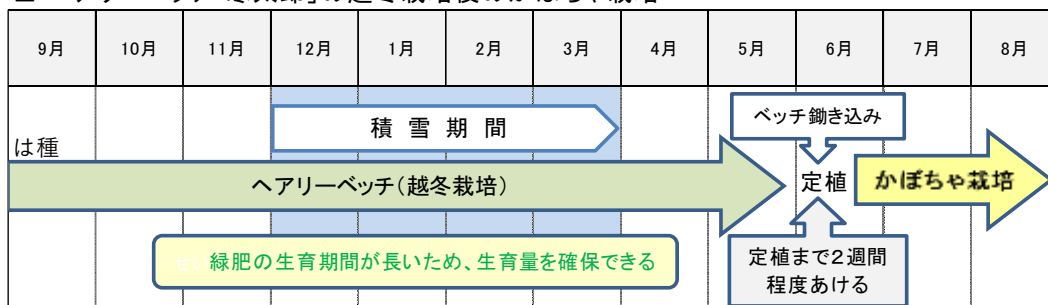
(4) 土壌分析値

pH (H ₂ O)	EC	トルオーグ リン酸 mg/100g	交換性塩基			リン酸 吸収係数	CEC
			石灰 mg/100g	苦土 mg/100g	加里 mg/100g		
5.4	0.06	19	162	37.4	18	1327	10.5

3 結果の概要

- 越冬性緑肥は生育期間が長く、生育量を確保できる長所がある。かぼちゃ定植の2週間前までに鋤き込んで腐熟を促進し、地力向上と安定生産につなげたい。
- 生育調査ではヘアリーベッチ(2区、3区)の生育量が旺盛であった。
- 緑肥鋤き込み区のかぼちゃ収量は、いずれも対象区(緑肥栽培していない区)を上回った。
- ヘアリーベッチの比較では、生育量の大きい品種ほどかぼちゃの収量が高いと思われたが、中生の品種が優る結果となった。
- ヘアリーベッチを活用してかぼちゃ栽培を行う場合の模式図を示した。

■ ヘアリーベッチ「寒太郎」の越冬栽培後のかぼちゃ栽培

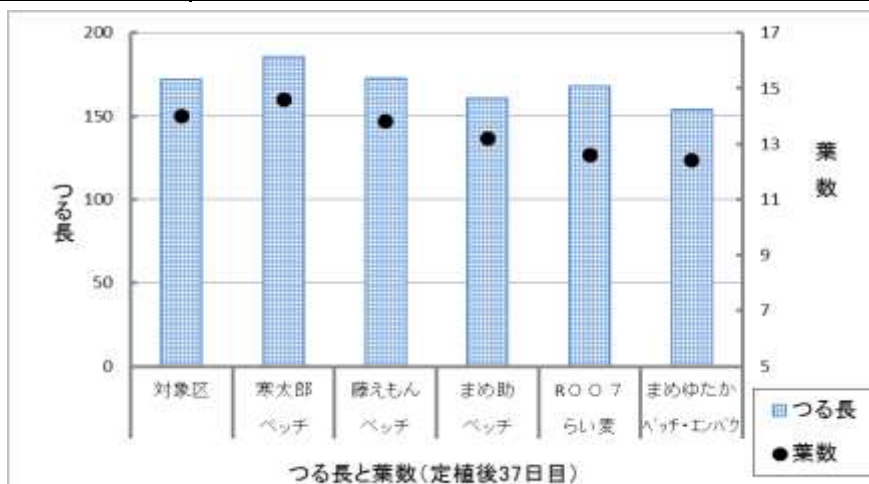


2 具体的データ

(1) 生育調査

調査日:7月11日

区	1	2	3	4	5	6
緑肥名	対象区	Hベッチ	Hベッチ	Hベッチ	らい麦	ベッチエンバク
品種名	-	寒太郎	藤えもん	まめ助	ROO7	まめゆたか
葉数(枚)	14.0	14.6	13.8	13.2	12.6	12.4
つる長(cm)	172.0	185.4	172.6	160.8	167.8	153.6

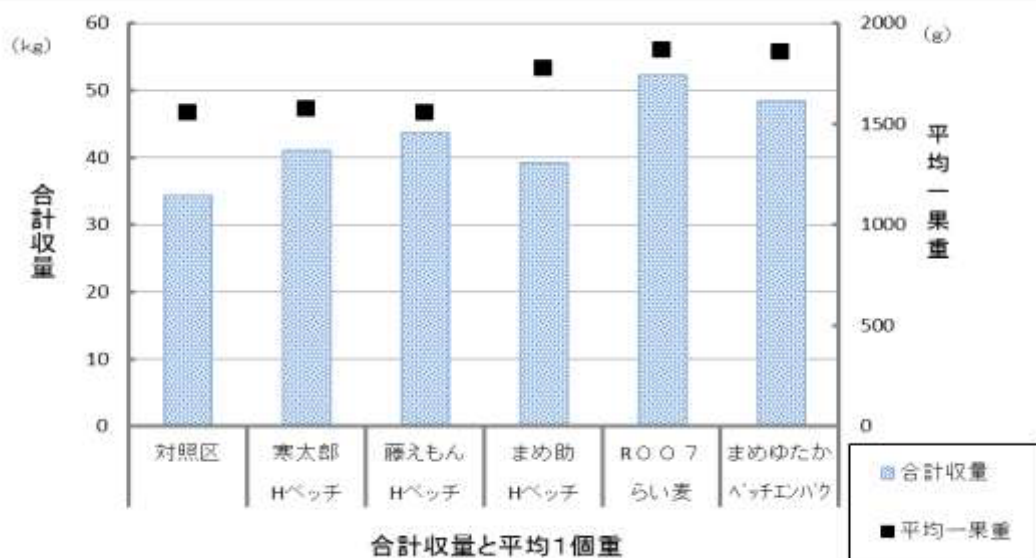


(2) 収穫物調査

収穫日:9月9日

測定日:9月17日

区	1	2	3	4	5	6
緑肥名	対照区	Hベッチ	Hベッチ	Hベッチ	らい麦	ベッチエンバク
品種名	-	寒太郎	藤えもん	まめ助	ROO7	まめゆたか
着果数(個)	22	26	28	22	28	26
平均1果重(g)	1560.5	1578.8	1560.7	1778.6	1868.6	1859.6
合計重量(kg)	34.33	41.05	43.7	39.13	52.32	48.35



- 1 処理区単位の合計収量および平均一個重共に、らい麦「R007」が高かった。
- 2 1処理区は16株定植しており、着果個数は22個(対照区)から32個(らい麦「R005」)までの差が生じた。
- 3 「まめゆたか」区の収量も高く、乾物重も高い(10a当たり443kg<前年の試験結果>)ので導入する緑肥として有望である。
- 4 「らい麦」鋤き込み区では、かぼちゃの蔓長は短い、着果が良好であった。着果数が多かったため、収量も多い結果となった。

緑肥の生育状況(越冬前)



緑肥の生育状況(越冬後)



緑肥の生育状況(越冬後)



緑肥鋤き込み後のかぼちゃ生育



[令和元年度]

目 的	アスパラガス育苗日数の違いと充実度を調べる。
試験機関	厚沢部町農業活性化センター
連携機関	厚沢部町農業振興公社
場 所	農業活性化センター試験圃場

1 試験方法

(1) 育苗内容

区分	品種	種苗元	播種日	定植日	育苗日数	苗の形態	掘取日
1年苗	太宝早生	パイオニア エコサイエ ンス㈱	令和1年 2月4日	5月22日	107日	径9cm ポリ鉢	11月1日
1年半苗			平成30年 6月12日		343日	径12cm ポリ鉢	

注)厚沢部町農業振興公社で栽培管理した苗を供試した。

年	1年目												2年目											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年苗													 ● → ■ → ◎ 播種 定植 掘り取り											
1年半苗	 ● → ■ → ◎ 播種 定植 掘り取り												越冬時の低温 条件は 無加温ハウス											

(2) 試験規模他

①供試面積:7a ②1区面積:3.5a ③施肥月日:5月13日

(3) アスパラガスの株育成圃場の耕種概要

土性	前作物	施 肥			中耕・除草	畝立て
		肥料	kg/10a	施肥位置		
埴壌土	かぼちゃ	UF764	60	畝の中心部2m幅	8月24日	高畝マルチヤー グリーンマルチ

(4) 土壤分析值

pH (H ₂ O)	可給態 リン酸 mg/100g	交換性塩基			リン酸 吸収係数	CEC
		石灰 mg/100g	苦土 mg/100g	加里 mg/100g		
5.6	9	205	18	24.9	1445	11

4 結果の概要

- ・ 供試した苗は約11か月に及ぶ長期間をハウスで灌水等の管理が行われた。多大な育苗時間が必要であり、肥効を切らせない管理が求められる。
- ・ 育苗期間が異なる1年と1年半苗では、掘り取り時の根重に大きな差が見られた。平均根重では1年苗が1.1kg/本、1年半苗が2.3kg/本であった。
- ・ 10月2日に貯蔵根のBrix糖度を測定した。1年半苗が13.2度、1年苗が10.8度であった。
- ・ 1年苗、1年半苗共に苗育成圃場においては、掘り取り時により多くの貯蔵根を得るためにマルチ・高畦で栽培が望ましい。さらにバンドと支柱利用による茎葉の倒伏防止は光合成を良好に保ち、良質な根株生産につながる。

2 具体的データ

(1) 根重調査結果

- ・ 11月1日に機械堀りした1年苗と1年半苗の各20株の重量を調査した。
- ・ 1年苗と1年半苗の根重の差は大きく、平均1株重は各1.1kgと2.3kgであった。
- ・ 「太宝早生」1年半苗の低温処理は、ハウス内と屋外の雪中と条件を変えて生育を比較した結果、屋外保管は草丈の伸長がハウス内よりも勝ったが、茎数は少なかった。
- ・ 「太宝早生」の越冬条件では、無加温ハウス内の苗を使用した。屋外で越冬した苗などの低温条件を変えて育苗を行った場合の根重調査は行っていない。

◆1年半苗の越冬後の生育比較

品種:「太宝早生」

調査月日:3月5日

調査株数:12株

低温条件	ハウス内 ベンチ置床	屋外 雪中保管
草丈 (cm)	29.4	51.5
茎数 (本)	7.1	5.3

◆1年苗と1年半苗の根重

品種:「太宝早生」

調査月日:11月1日

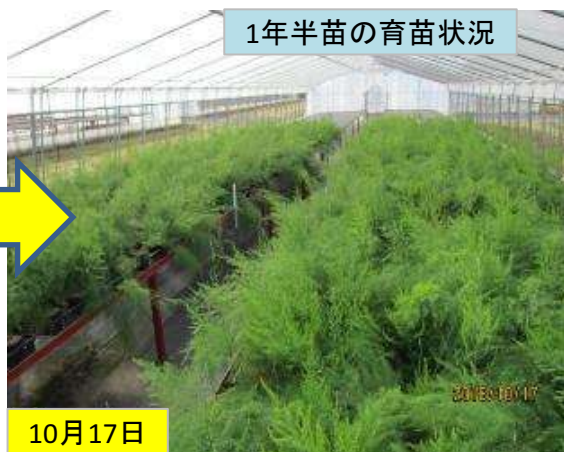
調査株数:各20株

	1年半苗	1年苗
根重 (g/株)	2.3	1.1

3 関連画像

(1) 育苗状況

- ・ 無加温ハウス管理と雪中保管した苗の根部状態



(2) 移植後の生育比較



(3) 茎葉処理と掘り取り

茎葉処理後 1年苗 定植後155日



10月24日

茎葉処理後 1年半苗 定植後155日



10月24日

11月1日

掘り取り作業



茎葉処理後 1年苗 マルチ除去



11月1日

11月1日



11月1日



11月1日

掘り取り機



生分解性マルチ比較試験

[令和元年度]

目 的	生分解性マルチの特性をかぼちゃを栽培して比較する
試験機関	厚沢部町農業活性化センター
連携機関	
場 所	農業活性化センター試験圃場

1 試験方法

(1) 供試作物

品目	品種名	種苗会社名
かぼちゃ	プリメラ115	朝日工業(株)

(2) 試験規模

- ①供試面積: 260 m² ②育苗:トレイ育苗(72セル) ③反復: なし
- ④施肥・マルチ:5月24日 ⑤肥料:S879E 80kg/10a、分肥 6月26日 S444 30kg/10a
- ⑥マルチ鋤き込み:9月4日

(3) 耕種概要

土性	前作物	畦間 (m)	株間 (cm)	株数 (株/10a)	播種日	定植日	収穫日
埴壤土	馬鈴薯	3.5	60	470	4月24日	5月24日	8月27日

(4) 土壌分析値

pH (H ₂ O)	EC	可給態 リン酸 mg/100g	交換性塩基			リン酸 吸収係数	CEC
			石灰 mg/100g	苦土 mg/100g	加里 mg/100g		
5.6	0.04	7	141	34.2	22.6	1502	9.6

(5) 試験区分

No.	資材名	メーカー名	特徴
1	サンバイオ (対照区)	サンブラック工業	グリーンプラ
2	畑楽マルチ (タイプ1)	北越化成(株)	酸化分解型マルチ 分解が早いタイプ
3	畑楽マルチ (タイプ2)	北越化成(株)	酸化分解型マルチ 分解が遅いタイプ
4	コーンマルチⅡ (白色)	サンテーラ(株)	グリーンプラ 微生物により水と炭酸ガスに分解
5	コーンマルチⅡ (黒色)	サンテーラ(株)	グリーンプラ 微生物により水と炭酸ガスに分解

注) グリーンプラ(生分解性プラスチック): 通常のプラスチックと同様に使うことができ、使用後は微生物の働きで最終的に水と二酸化炭素に分解されるプラスチック『日本バイオプラスチック協会』

5 結果の概要

- マルチの亀裂が発生しやすかったのは「サンバイオ」「コーンマルチⅡ(白)」であった。
- かぼちゃの生育は「コーンマルチⅡ(黒)」の蔓伸長が遅かった。地温の影響と思われた。
- マルチ下の雑草発生量に差が見られた。「畑楽マルチ1」「畑楽マルチ2」はマルチ肩部分や中央部分も土と密着している箇所は雑草が褐変していた。
- 分解が早いタイプの「畑楽マルチ タイプ1」は強度が強く、鋤き込み時はロータリー軸にマルチ残渣が絡んだ。更に分解速度を速める必要があると思われた。
- 次回の比較試験では、さらに分解が早いタイプの「畑楽マルチ」で鋤き込み時の分解程度を確認する。

4 具体的データ

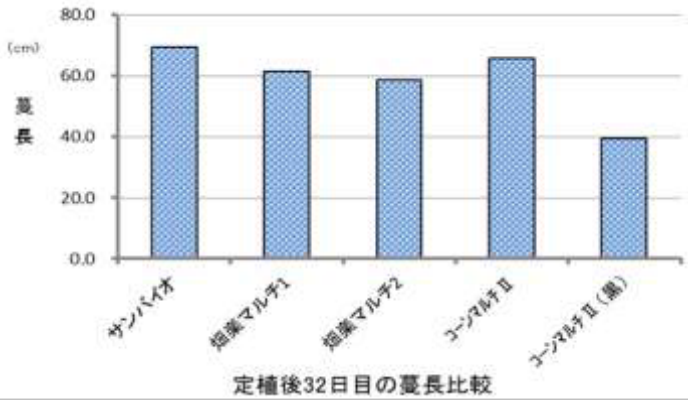
(1)生育調査

定植後32日

調査月日：6月25日

調査株数：15株/区

資材名		サンバイオ	畑楽 タイプ1	畑楽2 タイプ2	コーンマルチⅡ 白色	コーンマルチⅡ 黒色
蔓長	(cm)	69.4	61.5	58.5	65.7	39.5

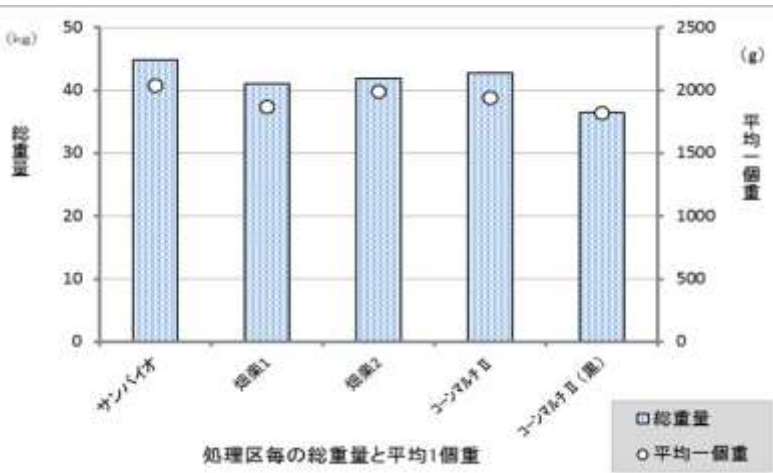


- ・ 定植後30日頃から蔓長など生育の処理区間差が明確になってきた。
- ・ 「コーンマルチⅡ（黒色）」の生育が遅かった。地温の低さが生育に影響したと思われる。
- ・ マルチの亀裂は「サンバイオ」が最も早い時期から生じた。

(2)収量調査

調査株数：20株/区

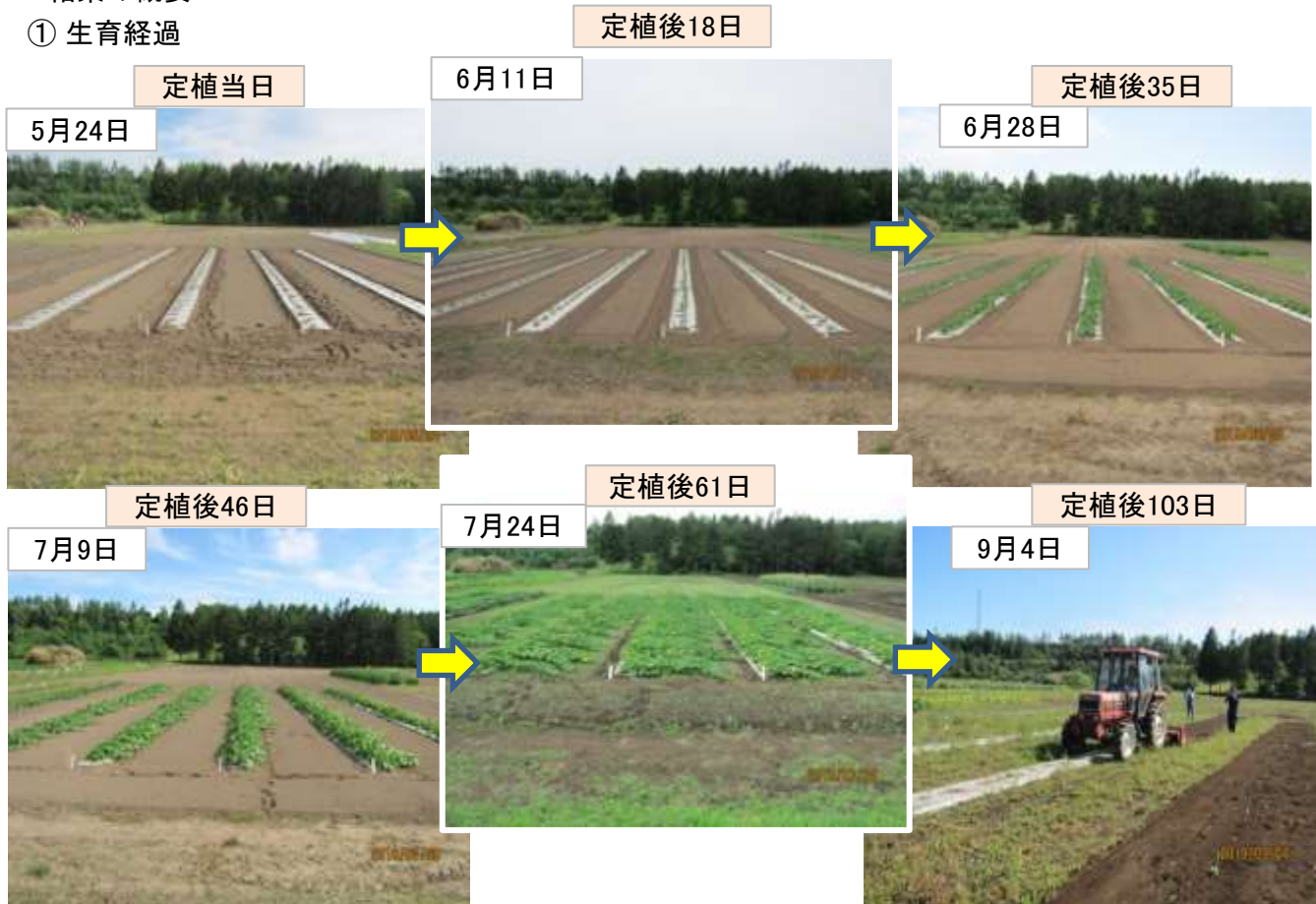
資材名		サンバイオ	畑楽 タイプ1	畑楽2 タイプ2	コーンマルチⅡ 白色	コーンマルチⅡ 黒色
個 数	(個)	22	22	21	22	20
総重量	(kg)	44.8	41.04	41.81	42.68	36.37
平均一個重	(g)	2036	1865	1991	1940	1819



- ・ 全処理区で元成りの果実は除去したが、着果数が少なかった。
- ・ 「コーンマルチⅡ（黒色）」の生育が食の段階から最も遅かった。着果後の果実肥大も芳しくなかった。
- ・ 収量では「コーンマルチⅡ（黒色）」以外4種の区間差は少ないと判断した。

2 結果の概要-1

① 生育経過



② 定植後35日の生育状況

撮影日 6月28日

■表記について

「畑楽マルチ(タイプ1)」は「畑楽マルチ1」

「畑楽マルチ(タイプ2)」は「畑楽マルチ2」

■定植後の日数も進んでいないため、生育の処理区間差は少ないが、「コーンマルチⅡ(黒)」の蔓の伸長が他の処理区に比べて遅い。地温の低さ(未測定)が影響していると思われる。



③ 定植後46日の生育状況

7月9日

■「コーンマルチⅡ（黒）」の蔓の伸長が他の処理区に比べて遅い。地温の低さ(未測定)が影響していると思われる。



3 結果の概要-2

① マルチの状態

撮影日 6月3日

定植後10日目

■マルチ内側の水滴の付き方に違いが見られた。「畑楽マルチ1」「畑楽マルチ2」の水滴の付着量が多かった。「コーンマルチⅡ（白）」では株周辺に水滴が付着した。



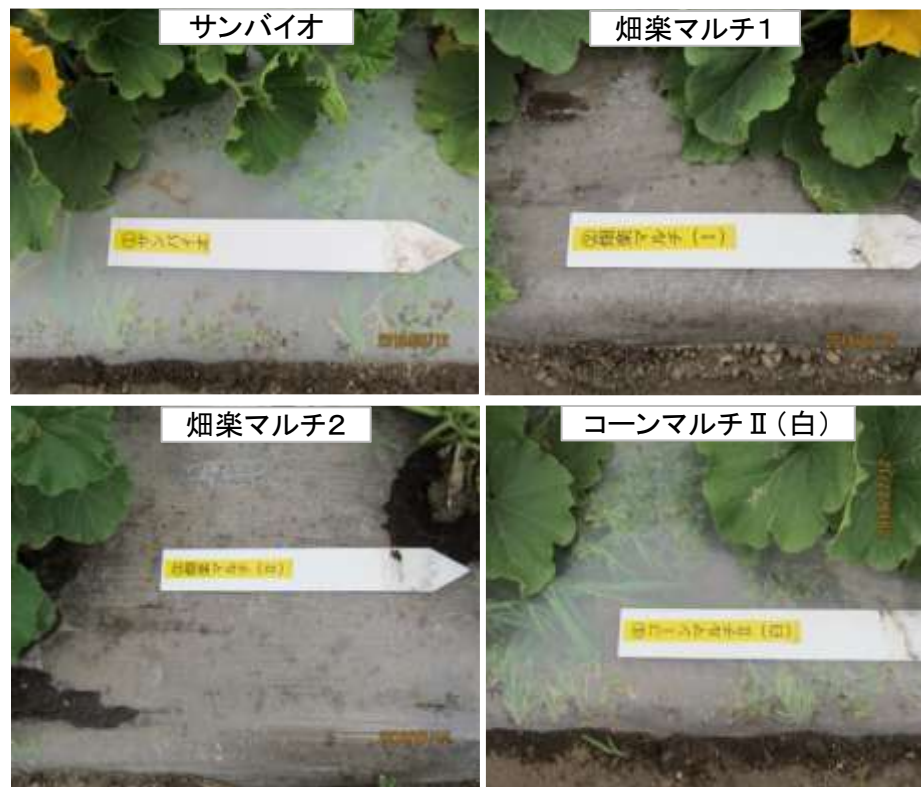
② マルチの状態

撮影日 7月12日

定植後49日目

■4種類の全マルチに亀裂は発生していない。「畑楽マルチ1」「畑楽マルチ2」ではマルチ下の雑草が焼けて褐変している。

■雑草はスベリヒユとヒエの発生量が多い。



③ マルチの状態

撮影日 7月24日

定植後61日目



■マルチに亀裂が発生した。「サンバイオ」「コーンマルチⅡ(白)」で亀裂が生じたが、他のマルチでは発生しなかった。

7月23日:「サンバイオ」のマルチ肩部分に亀裂が発生した。

7月29日:「コーンマルチⅡ(白色)」のマルチ肩部分に亀裂が発生した。



④ マルチの状態

撮影日 8月2日

定植後70日目

■マルチの亀裂は発生箇所が拡大した。「サンバイオ」「コーンマルチⅡ（白）」の亀裂箇所が多い。



⑤ マルチの状態

撮影日 8月2日

定植後70日目

■「サンバイオ」「コーンマルチⅡ（白）」の亀裂が大きくなった。他の3マルチには亀裂が発生していない。

■「畑楽マルチ1」「畑楽マルチ2」はマルチ下の雑草が焼けて発生量が少ない。雑草種子ができないため、発生の軽減につながる。



にんにく栽培試験1

[令和元年度]

目 的	にんにくの栽培方法を検討する 種子球の大きさによる収量比較を調査する
試験機関	厚沢部町農業活性化センター
連携機関	
場 所	農業活性化センター圃場C左

1 試験方法

(1) 供試品種

品種名	種苗会社
スーパーホワイト六片	カネコ種苗

(2) 試験規模・栽植内容

- ①供試面積：120 m² ②1区面積：30 m² ③反復数：2
 ④栽植様式：マルチ栽培 4条植え、通路幅 60cm
 ⑤使用マルチ：ホーリーマルチ(黒色)、#3415、孔径60mm

(3) 耕種概要

土性	前作物	株数 (株/10a)	定植日	収穫日
埴壤土	馬鈴薯	14,500	平成30年9月18日	令和元年7月16日

肥料銘柄	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)			
		窒素	リン酸	加里	苦土
UFS555	140	21	21	21	4.2
ダブリン特17号	80		28		6
合 計		21	49	21	10.2

(4) 土壌分析値

pH (H ₂ O)	可給態 リン酸 mg/100g	交換性塩基			CEC	リン酸 吸収係数
		石灰 mg/100g	苦土 mg/100g	加里 mg/100g		
5.6	19	162	137	18	11	1327

(5) 試験区分

番号	区分	*りん片 大きさ	1区面積
①	1-I	りん片 大	30m ²
②	1-II	りん片 大	30m ²
③	2-I	りん片 小	30m ²
④	2-II	りん片 小	30m ²

*：りん片の区分 … りん片の大小はりん片重10gを境界とした。

2 具体的データ

(1) 生育調査

草丈の推移

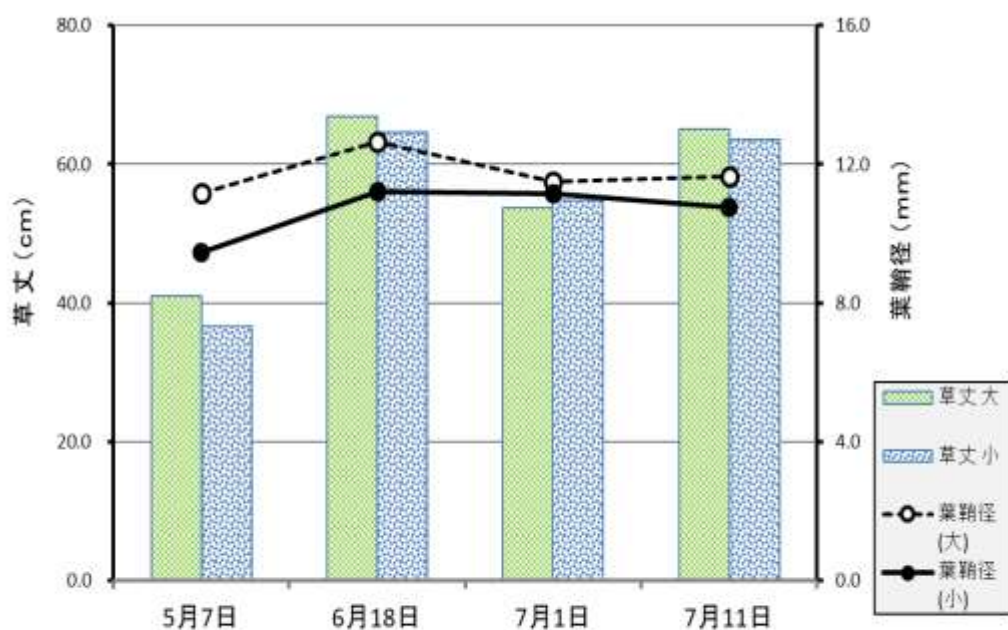
調査株数: 12株/区

調査項目		草丈 (cm)			
		5月7日	6月18日	7月1日	7月11日
①	1-I	39.3	68.5	55.1	65.5
②	1-II	42.7	65.1	52.4	64.5
平均		41.0	66.8	53.8	65.0
③	2-I	36.3	65.6	56.8	63.5
④	2-II	37.0	63.7	52.6	63.5
平均		36.7	64.7	54.7	63.5

葉鞘径の推移

調査株数: 20株/区

調査項目		葉鞘径 (mm)			
		5月7日	6月18日	7月1日	7月11日
①	1-I	11.5	12.2	11.6	12.3
②	1-II	10.8	13.1	11.4	11.0
平均		11.2	12.7	11.5	11.7
③	2-I	9.4	11.4	11.5	11.1
④	2-II	9.5	11.0	10.8	10.4
平均		9.5	11.2	11.2	10.8



草丈と葉鞘径の推移

- ◆ りん片の大きい処理区が、草丈・葉鞘径ともに数値が高かった。
- ◆ 葉鞘径は生育が進むと処理区間差が小さくなった。

球径の推移

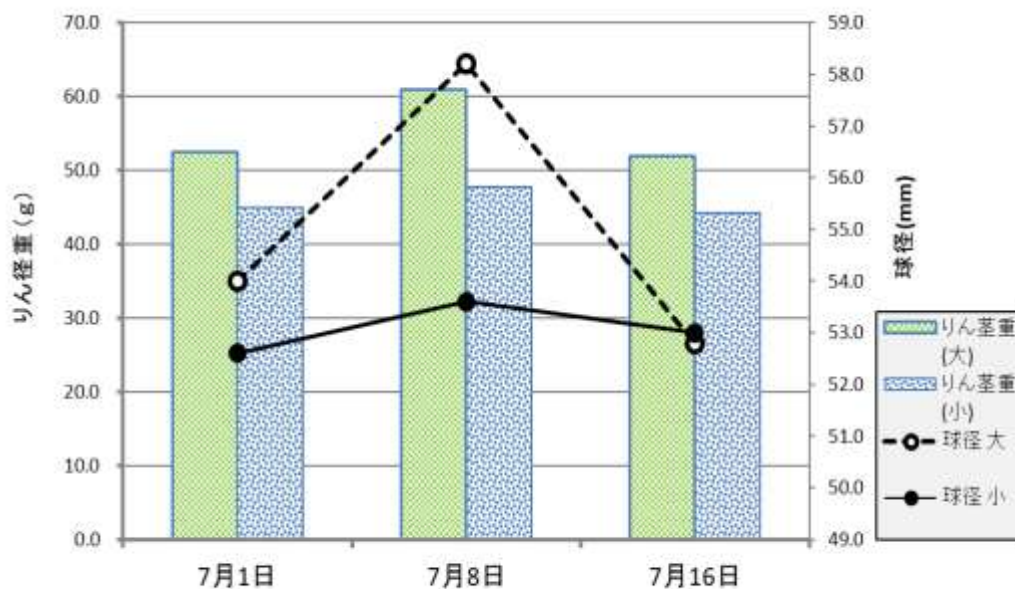
調査株数:20株/区

調査項目		球径(mm)		
		7月1日	7月8日	7月16日
①	1-I	54.4	57.8	50.4
②	1-II	53.5	58.6	55.1
平均		54.0	58.2	52.8
③	2-I	53.6	55.1	54.1
④	2-II	51.5	52.1	51.9
平均		52.6	53.6	53.0

りん茎重量の推移

調査株数:20株/区

調査項目		りん茎重量(mm)		
		7月1日	7月8日	7月16日
①	1-I	52.5	60.0	51.8
②	1-II	52.5	61.8	52.0
平均		52.5	60.9	51.9
③	2-I	45.9	51.6	46.2
④	2-II	43.8	43.8	42.4
平均		44.9	47.7	44.3



りん茎重と球径の推移

- ◆ りん片の大きい処理区が、球径・りん茎重ともに数値が高かった。
- ◆ りん片の小さい処理区は、球径の差は小さかった。しかし、りん径重量は平均でも9.4gの差があり、生育での限界値が低いと考えられる。

(2)収穫物調査

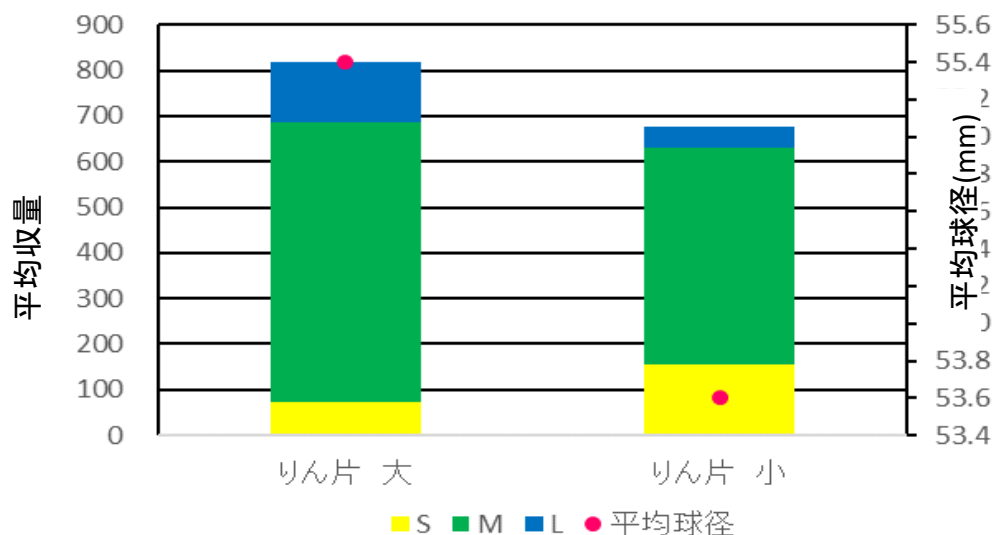
調査株数:20株/区

No.	区分	反復 平均	規格別割合(%)				平均球径 (mm)	平均一球重 (g)	収量 (kg/10a)	平均収量 (kg/10a)
			2L	L	M	S				
①	1-I	1回目	0	35	65	0	57.5	59.5	863	817
		2回目	0	0	70	30	51.2	53.7	779	
		平均	0	17	68	15	54.3	56.6	821	
②	1-II	1回目	0	25	75	0	58.2	60.4	876	
		2回目	0	5	90	5	54.9	51.8	751	
		平均	0	15	83	2	56.5	56.1	813	
③	2-I	1回目	0	15	75	10	55.5	52.3	758	677
		2回目	0	10	60	30	54.2	46.2	670	
		平均	0	12	68	20	54.8	49.3	714	
④	2-II	1回目	0	5	65	30	52.5	44.8	650	
		2回目	0	0	80	20	52.4	43.5	631	
		平均	0	2	73	25	52.4	44.2	640	

※規格は直径による区分

2L: 7cm～ L: 6cm～7cm M: 5cm～6cm S: 4cm～5cm

収量換算グラフと球径



3 結果と考察

- ◆ りん片の大きい処理区は収量が800kg/10aを超える結果となった。
りん片の小さい処理区とは140kgの差があった。
- ◆ 平均球径の差は3mm以下となっており、大きな差はなかった。
- ◆ 規格については、りん片の大きい処理区の約91%がM規格以上を収穫できた。
対照に、りん片の小さい処理区では約23%がS規格だった。これにより収量が少ない結果にも繋がっている。
- ◆ 2L規格がどの区分でも収穫できなかった。L規格の大きさの比率を上昇させ
- ◆ 2L規格がどの区分でも収穫できなかった。L規格の大きさの比率を上昇させる為に、施肥方法含め検討が必要だと考えられる。

にんにく栽培試験2

[令和元年度]

目 的	にんにくの栽培方法を検討する 植え付け時期の違いが収量に及ぼす影響を調査する
試験機関	厚沢部町農業活性化センター
連携機関	
場 所	農業活性化センター圃場C左

1 試験方法

(1) 供試品種

品種名	種苗会社
スーパーホワイト六片	カネコ種苗

(2) 試験規模・栽植内容

- ①供試面積：120 m² ②1区面積：30 m² ③反復数：2
 ④栽植様式：マルチ栽培 4条植え、通路幅 60cm
 ⑤使用マルチ：ホーリーマルチ(黒色)、#3415、孔径60mm

(3) 耕種概要

土性	前作物	株数 (株/10a)	植付日	収穫日
埴壤土	馬鈴薯	14,500	平成30年9月18日	令和元年7月16日
			平成30年8月21日	

肥料銘柄	施用量 (kg/10a)	要素量(kg/10a)			
		窒素	リン酸	加里	苦土
S555	140	21	21	21	4.2
ダブリン特17号	80		28		6
合 計		21	49	21	10.2

(4) 土壌分析値

pH (H ₂ O)	可給態 リン酸 mg/100g	交換性塩基			CEC	リン酸 吸収係数
		石灰 mg/100g	苦土 mg/100g	加里 mg/100g		
5.6	19	162	137	18	11	1327

(5) 試験区分

No.	植付日	*リン片 大きさ	1区面積
①	9月18日	大リン片	60m ²
②	8月21日	大リン片	60m ²

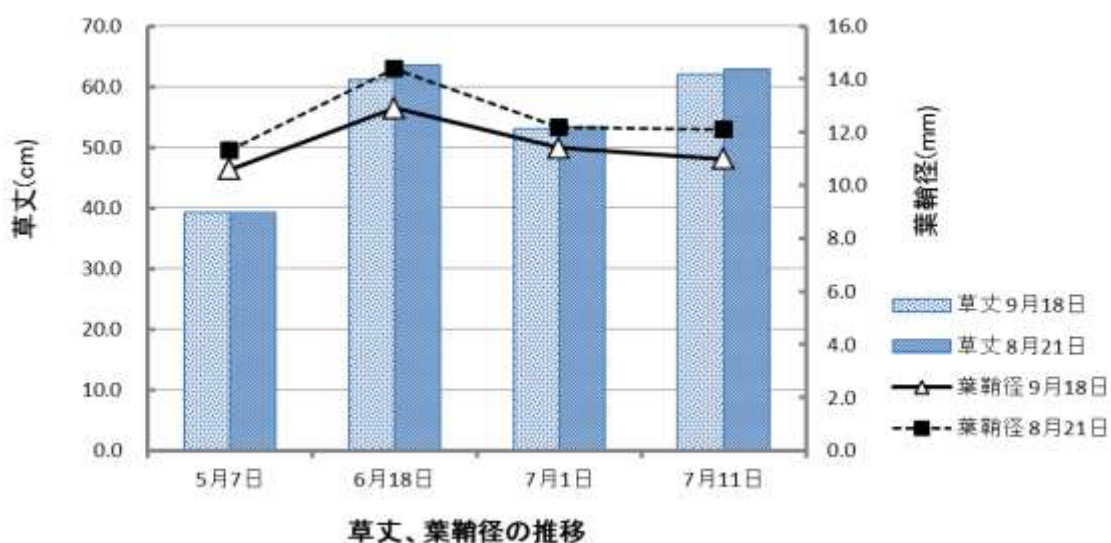
*：りん片の大きさ … 種球はりん片重10g以上を使用した。

2 具体的データ

(1) 生育調査

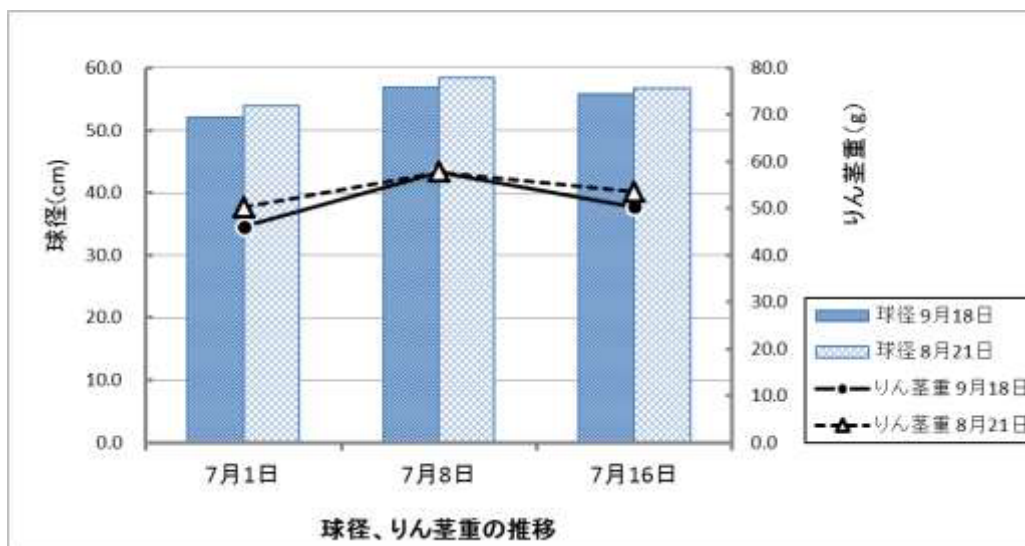
草丈の推移		調査株数: 12株/区			
No.	植付日	草丈 (cm)			
		5月7日	6月18日	7月1日	7月11日
①	9月18日	39.3	61.3	53.1	62.1
②	8月21日	39.3	63.6	53.5	62.9

葉鞘径の推移		調査株数: 20株/区			
No.	植付日	葉鞘径 (mm)			
		5月7日	6月18日	7月1日	7月11日
①	9月18日	10.6	12.9	11.4	11.0
②	8月21日	11.3	14.4	12.2	12.1



球径の推移		調査株数: 20株/区		
No.	植付日	球径 (mm)		
		7月1日	7月8日	7月16日
①	9月18日	52.1	56.9	55.8
②	8月21日	54.0	58.5	56.7

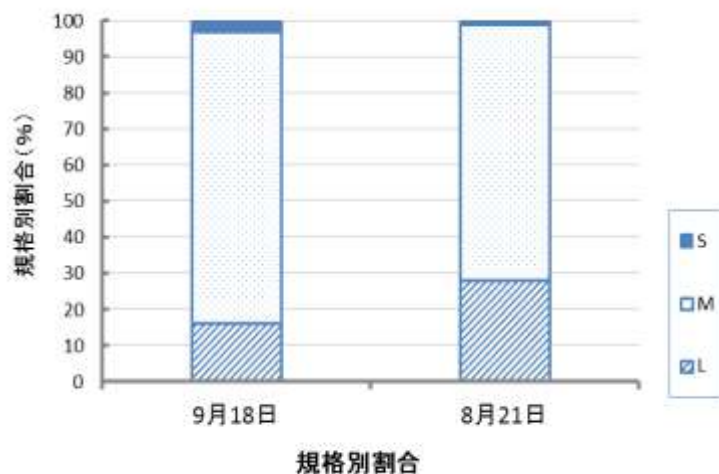
りん茎重量の推移		調査株数: 20株/区		
No.	植付日	りん茎重量 (g)		
		7月1日	7月8日	7月16日
①	9月18日	46.1	57.6	50.3
②	8月21日	50.2	57.8	53.5



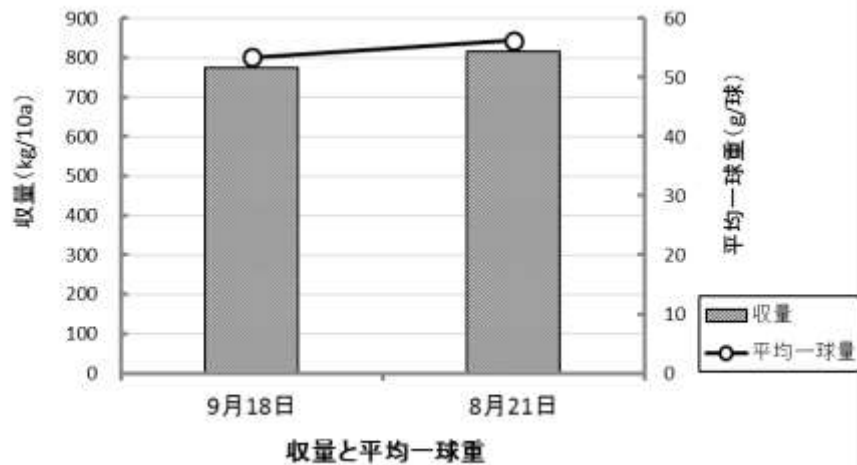
- ◇ 草丈、葉鞘径の推移
 - ・草丈と葉鞘径は、4回の調査時点の全てにおいて8月21日植付区が優った。
- ◇ 球径、りん茎重の推移
 - ・球径とりん茎重は、3回の調査時点の全てにおいて8月21日植付区が優った。
- ◇ 萌芽までの所要日数
 - ・8月21日植付区の萌芽始めは9月24日で、所要日数は34日であった。9月18日植付区の萌芽始めは10月8日で、所要日数は20日であった。

(2) 収量調査

No.	植付日	反復平均	規格別割合 (%)				平均一球重 (g)	収量 (kg/10a)
			2L	L	M	S		
①	9月18日	I	0	20	76	4	56.4	818
		II	0	12	86	2	50.3	730
		平均	0	16	81	3	53.4	774
②	8月21日	I	0	36	62	2	59.0	855
		II	0	20	80	0	53.4	775
		平均	0	28	71	1	56.2	815



規格基準
 横径
 2L: 7.0cm以上
 L: 6.0～7.0cm未満
 M: 5.0～6.0cm未満
 S: 4.0～5.0cm未満



◇ 規格別割合の比較

- ・ 2L規格は無く、L規格の占有率は8月21日植付区が高かった。

◇ 収量と平均一球重の比較

- ・ 収量と平均一球重は8月21日植付区が多く、10a換算収量比で9月18日植付区の105%となった。

3 結果と考察

- ・ 北海道野菜地図(編集発行:北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会)によると、露地早熟作型と露地作型の植付期は9月20日～30日となっている。本試験では植付時期を約1か月早めた場合の生育状況と収量を比較することを目的として調査を行った。
- ・ 調査結果では越冬後の生育は8月植付区が9月植付よりも良好で、収量も高い結果となった。



堆肥施用効果確認試験

[令和元年度]

目 的	堆肥施用により化成肥料を減肥した栽培方法について検討する
試験機関	厚沢部町農業活性化センター
連携機関	
場 所	ふれあい農園横試験圃

1 試験方法

(1) 供試作物

品 目	品 種 名	種苗会社名
たまねぎ	天心	日本農林社

(2) 試験規模

- ①供試面積: 60 m² ②1区面積: 30 m² ③堆肥散布: 平成28年10月5日
④堆肥散布量: 2トン/10a ⑤施肥月日: 5月7日 ⑥マルチング: 5月7日
⑦球肥大期: 8月2日 ⑧倒伏期: 8月8日 ⑨堆肥散布: 令和1年9月26日

(3) 耕種概要

前作物	栽培方法	条間 (cm)	株間 (cm)	株数 (株/10a)	は種日	定植日	収穫日
スイートコーン	マルチ	30	15	29,630	3月6日	5月9日	9月18日

(4) 土壌分析値

pH (H ₂ O)	可給態 リン酸 mg/100g	交換性塩基			リン酸 吸収係数	CEC
		石灰 mg/100g	苦土 mg/100g	加里 mg/100g		
5.7	17	225	38.6	75.3	1350	14.3

(5) 試験区分

区分	肥料名	施用量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)			
			窒素	リン酸	加里	苦土
堆肥 施用区	BB363L	115	15.0	18.4	15.0	
	ダブリン	40		14.0		2.8
	堆肥	2,000	2.0	6.0	8.0	
	合計		17.0	38.4	23.0	2.8
慣行区	BB363L	115	15.0	18.4	15.0	
	ダブリン	40		14.0		2.8
	合計		15.0	32.4	15.0	2.8

2 結果の概要

- ・堆肥区では生育期間を通して、慣行区とほぼ同等の生育を示した。
- ・病害や生理障害については差が見られず、収穫可能な株数についても同等であった。

3 考察

- ・本試験は定位置に堆肥施用を継続して4年目になる。堆肥区のたまねぎ生育及び収量は無堆肥区に比較して良好であった。堆肥区の規格内収量比は106%であった。
- ・堆肥を連用し、さらに化成肥料を削減した場合の生育の確認が必要である。

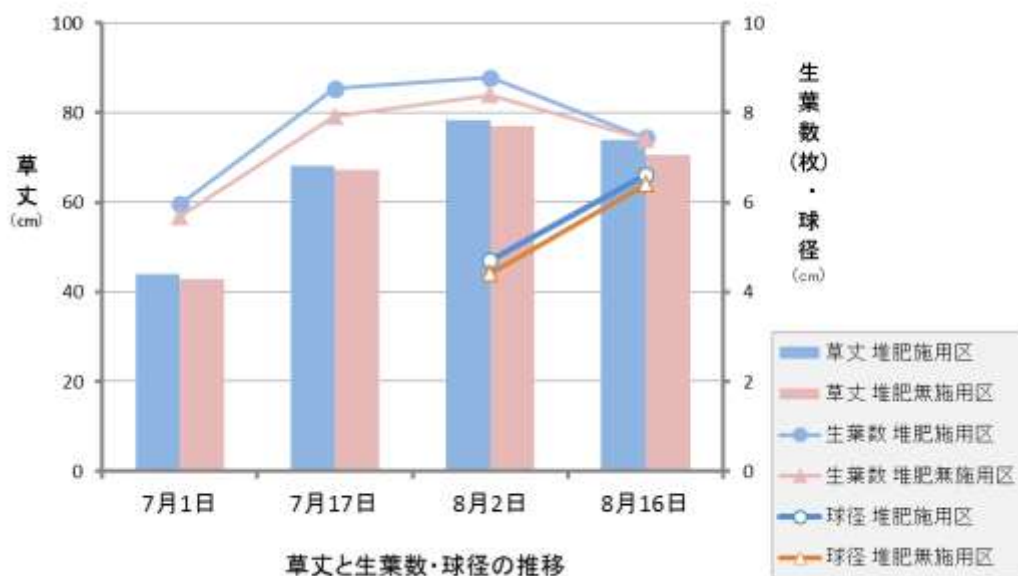
4 まとめと留意事項

- ・発芽や生育状況および収量での処理区間差は小さい結果となった。

5 具体的データ

(1)生育調査

調査月日		7月1日	7月17日	8月2日	8月16日
移植後日数(日)		52	68	84	98
堆肥区①	草丈(cm)	41.7	65.6	77.1	73.1
	生葉数(枚)	5.6	8.7	9.2	7.6
	球径(cm)	—	—	4.7	6.5
堆肥区②	草丈(cm)	46.0	70.7	79.7	74.8
	生葉数(枚)	6.3	8.4	8.4	7.3
	球径(cm)	—	—	4.7	6.7
堆肥区 平 均	草丈(cm)	43.9	68.2	78.4	74.0
	生葉数(枚)	6.0	8.5	8.8	7.4
	球径(cm)	—	—	4.7	6.6
無堆肥区①	草丈(cm)	44.7	67.9	75.3	69.9
	生葉数(枚)	6.0	8.5	8.6	7.6
	球径(cm)	—	—	4.9	6.7
無堆肥区②	草丈(cm)	41.1	66.4	78.6	71.1
	生葉数(枚)	5.4	7.3	8.2	7.2
	球径(cm)	—	—	3.9	6.0
無堆肥区 平 均	草丈(cm)	42.9	67.2	77.0	70.5
	生葉数(枚)	5.7	7.9	8.4	7.4
	球径(cm)	—	—	4.4	6.4

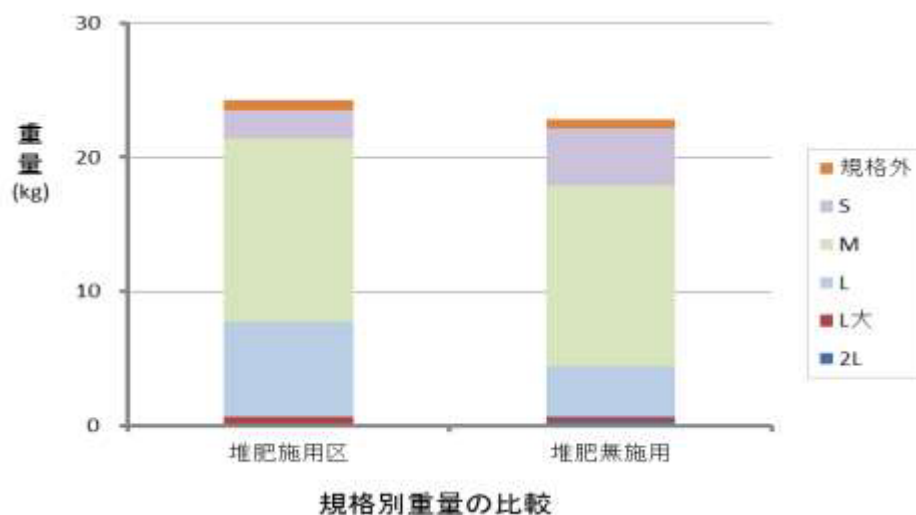


- ・ 生育期節は球肥大期が7月18日、倒伏期が8月8日、枯葉期が8月29日であった。
- ・ 7月から8月までの生育経過では、全ての調査項目で堆肥施用区が優った。

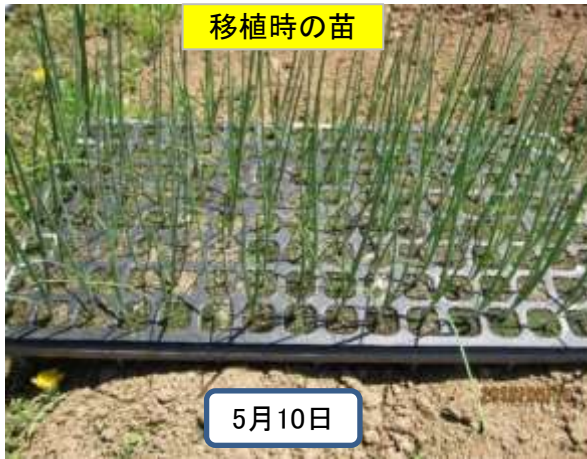
(2)収量調査

調査月日:9月18日 調査面積:4m²

区分	規格	2L	L大	L	M	S	規格外	合計
堆肥区 ①	個数 (個)	0	3	19	64	17	15	118
	重量 (kg)	0	1.0	5.0	13.1	2.5	1.6	23.2
堆肥区 ②	個数 (個)	0	1	34	71	12	0	118
	重量 (kg)	0	0.3	9.1	14.2	1.8	0.0	25.4
堆肥区 平 均	個数 (個)	0	2	27	68	15	8	118
	重量 (kg)	0.0	0.7	7.1	13.6	2.1	0.8	24.3
無堆肥区 ①	個数 (個)	0	1	15	67	30	5	118
	重量 (kg)	0	0.3	4.0	13.7	4.4	0.6	23.0
無堆肥区 ②	個数 (個)	2	1	13	68	28	6	118
	重量 (kg)	1	0.3	3.5	13.3	4.2	0.8	22.7
無堆肥区 平 均	個数 (個)	1	1	14	68	29	6	118
	重量 (kg)	0.4	0.3	3.8	13.5	4.3	0.7	22.9



- ・ マルチ栽培を行ったが、規格ではL大以上の占有率が低く、総収量は芳しくなかった。リン酸含量が低いことも球肥大に影響したと思われる。
- ・ 規格外はS規格以下の球であり、分球や裂皮、皮むけの発生は見られなかった。
- ・ 病害では乾腐病と灰色かび病がみられたが、発生量は極めて少なかった。



Ⅲ. 土壌分析診断事業について

1. 令和元年度 土壌診断事業実績

◎作物別の利用状況(点数)

(令和2年2月29日現在)

pH・EC簡易分析

多項目分析

対 象 作 物	分析点数	予 定 作 物	分析点数
小 麦	11 点	一 般 畑 作	465 点
テ ン サ イ	0 点	施 設 野 菜	168 点
そ の 他 畑 作	17 点	露 地 野 菜	28 点
ブ ロ ッ コ リ ー	0 点	花 き	0 点
カ ボ チ ャ	6 点	水 稻	99 点
伏 込 ア ス パ ラ	4 点	未 定	2 点
その他露地野菜	5 点	計	762 点
立 茎 ア ス パ ラ	0 点		
その他施設野菜	5 点		
花 き	7 点		
水 稻 育 苗	4 点		
そ の 他	3 点		
計	62 点		

◎土壌診断の留意事項

- ① 簡易分析はpH(土壌酸度)とEC(電気伝導度)を測定します。酸度矯正に必要な石灰質資材量の算出とハウス土壌の塩類集積に対する処方を検討します。
- ② pHとハウス土壌のEC(電気伝導度)は重要な項目ですので、簡易分析については年中受け付けています。
- ③ pHの矯正は施肥設計を行うための第一歩になります。まずはpHのチェックが大切です。
- ④ 水稻・野菜の育苗の土やハウス土壌(アスパラガスなど)は、土壌分析結果により適正な土壌改良資材量を施用する必要があります。
- ⑤ 多項目分析(石灰、苦土、加里、りん酸など)は秋から分析を行っています。りん酸や石灰が不足している畑もありますので、数年に一度は診断する必要があります。

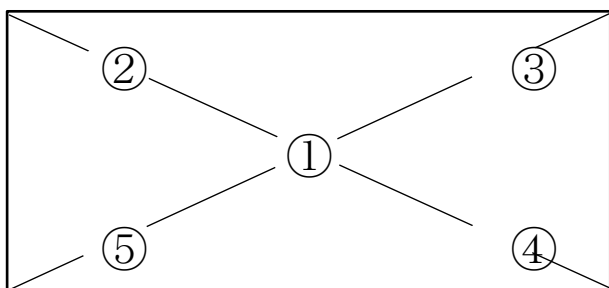
2. 土壌採取の手順

1. 採取時期

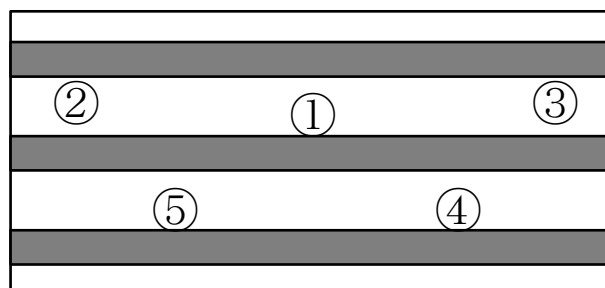
- ・土壌改良資材や施肥の影響が少ない時期、特に作物を収穫した後が良いです。
- ・作物の生育期間中でも、施肥後1ヶ月以上なら可能です。
- ・湿りすぎや、乾きすぎの時期はできるだけ避けてください。

2. 採取方法

- (1) 1枚の圃場(1棟のハウス)の対角線上に5か所から採取します。
土壌が比較的均一な圃場では、対角線上の3地点でも可能です。
(図の①、②、④、または①、③、⑤)

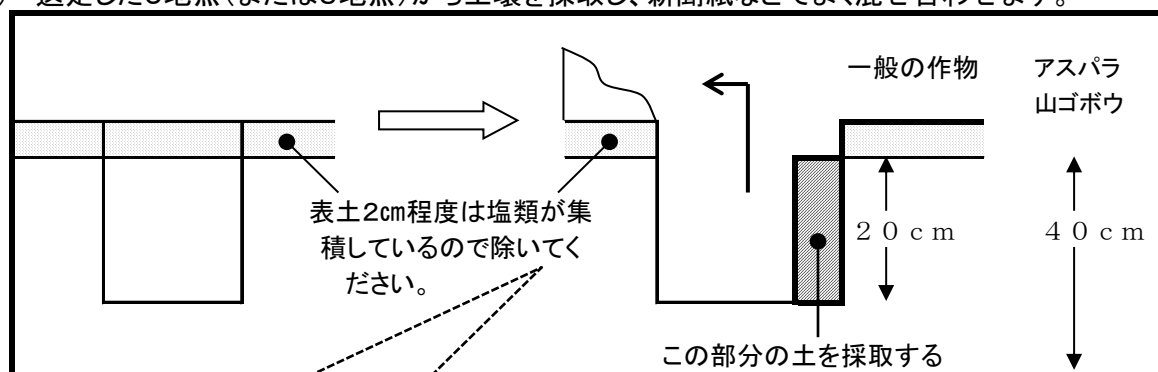


一般的な畑、ハウスの場合



立茎アスパラハウスの場合

- (2) 選定した5地点(または3地点)から土壌を採取し、新聞紙などでよく混ぜ合わせます。



※上層と下層を均等に採取するようにしてください。

通常は深さ20cm程度までで良いですが、アスパラや山ゴボウなど、根が深い作物では40cm程度まで採取するのが望ましいです。

- (3) 混ぜ合わせた土は、風通しのよい日陰で乾かします。乾いたら約500g(どんぶり一杯程度)を袋に入れて、農業活性化センターまでご持参ください。

※専用の「土壌サンプル袋」をJA各支店、活性化センターに設置していますので、ご利用ください。

- (4) 持参する土の袋には、住所、氏名、どこの土か区別できる番号を必ず記載してください。
また、作付予定作物・前作物・前作での障害・採取時期なども分かれば、併せて記載してください。

3. 作物の各成分の適正範囲

区 分	ハウレンソウ・ネギ	施設野菜	露地野菜
作物例	ハウレンソウ・ネギ	左記以外のハウス野菜(花も含む)	露地による大根・キャベツ等の野菜
分 析 項 目			
p H	6.0 ～ 6.5	6.0 ～ 6.5	5.5 ～ 6.0
E C	～ 0.6	～ 0.6	0.4 ～ 0.6
有効態りん酸	40 ～ 60	30 ～ 50	20 ～ 30
石 灰	300 ～ 450	300 ～ 450	250 ～ 350
苦 土	30 ～ 50	30 ～ 50	25 ～ 45
加 里	25 ～ 45	25 ～ 45	20 ～ 30
保肥力(CEC)	15 ～ 30	15 ～ 30	15 ～ 30
塩基飽和度	60 ～ 80	60 ～ 80	60 ～ 80
石灰飽和度	40 ～ 60	40 ～ 60	40 ～ 60
石灰・苦土比	～ 6	～ 6	～ 6
苦土・加里比	2 ～	2 ～	2 ～
りん酸吸収係数	土壌のもつ性質なので適正という範囲はありません。		

区 分	一般畑作	水稻育苗	
作物例	馬鈴しょ・大豆 小豆 など	水稻の育苗用土 (床土・箱土)	
分 析 項 目			
p H	5.5 ～ 6.0	4.5 ～ 5.0	
E C		～ 0.8	
有効態りん酸	10 ～ 30	～ 20	
石 灰	200 ～ 300		
苦 土	25 ～ 45	20 ～ 30	
加 里	15 ～ 30	～ 15	
保肥力(CEC)	15 ～ 30		
塩基飽和度	60 ～ 80		
石灰飽和度	40 ～ 60		
石灰・苦土比	～ 6	～ 3	
苦土・加里比	2 ～		
りん酸吸収係数	土壌のもつ性質なので適正という範囲はありません。		
りん酸・苦土比		～ 4.5	

※ りん酸・苦土比とは、りん酸と苦土のバランスを示したものです。

水稻育苗の場合は、りん酸が過剰になりすぎると苦土の欠乏が発生しやすく、りん酸の過剰障害がおきやすくなります。



厚 沢 部 町 農 業 活 性 化 セ ン タ ー

〒043-1237

北海道檜山郡厚沢部町鶉町853

TEL 0139-65-6061

FAX 0139-65-6804

E-mail agri-soil@town.assabu.lg.jp